

ここが聞きたい

ずばり村政を問う！

一般質問は、会議録に基づき、質問者本人が編集し、議会広報特別委員会で構成し、掲載しています。詳細は、会議録の閲覧ができます。



一般質問

ここが聞きたい ずばり村政を問う！

笠野 真喜議員

復興村づくり計画の現状は

笠野議員

熊本地震とその後の豪雨被害からの敏速な復旧・復興を目指すとともに、さらなる発展につなげていくために平成29年1月に策定、被災者の生活再建状況、復旧・復興の進捗、その後の住民ニーズの変化に合わせて、令和2年2月に改訂版が策定された。基本方針5項目、誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村にするための現状は。

概ね復興している

村長

今年度中に被災者の自宅再建、インフラ等の復旧事業は南阿蘇鉄道の復旧を除き来年度にかけて、小規模住宅地区改良事業は令和4年度に完了する。今後も誰もが住みたい・住み続けたいむらづくりのため、しっかり取り組んでいく。被災された皆さんが住みよい地区を目指してしっかりと取り組んでおられる。今後は若者も自立し、活気があるような地区づくりを推進する。

一般質問に対する執行部の取り組みは

笠野議員

議員は、地域の声を吸い上げ、それを議会に一般質問として表し、執行部の検討結果は、地域に返さなくてはならない。これまでの質問への回答やどのように検討されたのか、なぜ予算化できなかったのか、その過程結果について再度聞きたい。

①平成29年第2回定例会で今村竜喜議員が主要幹線道路の整備、新設について質問している。村長はどういうルートを通るかは今後、皆さんのご意見を聞き

ながら検討していく、その道路は非常に今後とも必要な道路と考えている、整備を進めていきたいと答弁。

②平成30年第1回定例会で、後藤征昭議員が熊本地震を教訓として生かすため、FM局の開局と災害対応事業業務のシステム化について質問している。村長答弁は先進地の事例や住民ニーズを調査し、有効な方法があるか検討していくと答弁。

③令和元年第3回定例会で人材育成について、長期に貢献してもらえる人材育成をしてはと質問している。村長は震災後には長期派遣をした実績はない。復旧・復興に応援の職員をお願いしている現状では長期研修の派遣は難しい状況だ。今後は意欲ある職員を計画的に派遣し、人材育成を図ると答弁。

検討結果は

村長

①現地を歩き、3ルート案を検討し経済建設常任委員会に報告した。実現に向けては村単独での新設は容易ではないと考えている。妙見橋は1日でも早い時期に交通規制解除を目指している。新阿蘇大橋や妙見橋の通行量など検証し、県と相談しながら方向性を見据えて道路事業を進める。

②臨時災害FM局であれば、災害時に開局できるので情報発信手段の一つとして必要が生じた場合は開局する。災害対応業務のシステム化は災害対応工程管理システム及び県防災情報共有システムの導入が完了している。

③人材育成は、令和元年から県観光物産課に2年間人事交流で1名派遣している。令和3年から情報関係部署に1名派遣する。また、技術職員を育成するために国交省熊本復興事務所と立野ダム事務所へ各1名派遣する計画。将来は上天草市との人事交流も実施したいと考えている。